

# 株式会社ジェッター（長崎県）

～「独創性がないものは市場に出さない」が信念～

## 1. パチンコ店の家業を生かして、遊技場向けシステム開発・機器メーカーを設立

薬品関係の営業担当をしていた大宅高敏社長が1975年（昭和50年）父親の家業・パチンコ業に手を染めたのが機器メーカーへの道を歩むきっかけになった。当時のパチンコ店は、たばこの煙でけむり、においが鼻をつき、灰皿には吸い殻が山になる悪い環境。パチンコ玉回収装置はすぐに玉づまりするなど問題が山積していた。これを解決しようとマッサージ器のバイブレーターを組み込んだ玉づまり防止装置を開発したところ、業界の注目を集めた。そこで昭和60年、（株）ジェッターを設立して製造販売に乗り出した。その後、シリコン潤滑スプレーを開発。ベルトコンベヤー方式のパチンコ玉・スロットマシン用メダルの自動回収・供給・研磨装置、吸い殻自動回収装置等を次々に開発してきた。「独創性がないものは市場に出さない」が社長の信念となっている。開発製品は自社グループのパチンコ店で徹底検証して改良に改良を重ね、信頼性、耐久性を高めた上で市場に出す方式をとっているため、ユーザーからの信頼は絶大。全国に9営業拠点を展開し、売り込みよりもメンテナンスサービスやソフトウェアのバージョンアップサービスに力を入れる。これが新たな成約の原動力となっている。

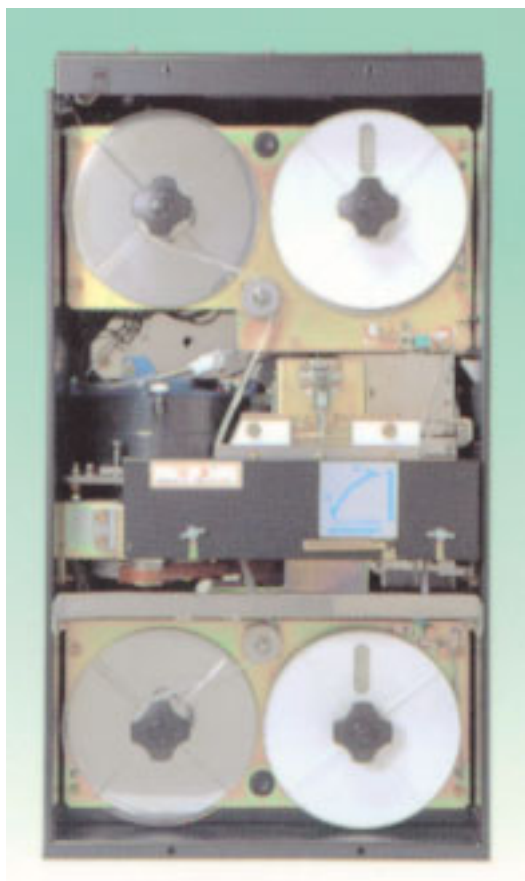
## 2. 売り上げの48%に特許技術製品が寄与

特許による売れ筋商品や装置の柱は、ジェッターライン（メダル自動補給装置）、ユニットシステム（メダル研磨装置）、ワープビルライン（紙幣自動搬送システム）、M-NET（台間メダル貸し機）、クリーン有田（たばこ吸い殻回収装置）、チタン大王（光触媒空気清浄機）など。これらが戦略商品として、同社の業績を引っ張っている。また、自社の開発品以外にも大手家電メーカーと提携開発した遊技場の不正行為や防犯、夜間監視を行うマルチビジョン対応型の「防犯追尾システム」などがあり、客先のニーズに即対応する攻めの経営を展開している。

## 3. 自社技術を守るための特許

同社の創業以来の開発テーマは、ライバルの追従を排除できる「ユーザーの立場に立った独創性の追求」である。同社が特許を取得するのは、自らの開発技術や製品に対して他社が特許を出願すると困るので、権利を確保し自社製品を保護して特許紛争に備えるといった防衛的な目的からである。

【特許活用製品】



コイン研磨機



全店還元方式

●会社概要

代表者：代表取締役社長 大宅 高敏

所在地：長崎県北松浦郡江迎町田ノ元免265 - 40

創業：1985（昭和60）年

資本金：1000万円

従業員：105人（うち特許担当者2人）

主要製品：メダル自動補給装置、メダル研磨装置、紙幣自動搬送システム、台間メダル貸し機、煙草吸い殻回収装置、光触媒空気清浄機など